

沖縄県のMICE振興に関する 取り組み状況について



第20回 国際会議等各種会議の
沖縄開催の推進に係る各省庁連絡会議

1. 政府における沖縄MICE振興の位置づけ

「国際会議等各種会議の 沖縄開催の推進について」 (平成12年6月20日 閣議了解)

- 「国際会議等各種会議の沖縄開催の推進に係る各省庁連絡会議」の設置
- 向こう5年間の計画策定等
- 誘致活動の強化
- 国際会議等の受け入れの円滑化

沖縄県を国家戦略特別区域 「国際観光拠点」に位置づけ

(国家戦略特別区域を定める政令(平成26年5月1日政令第178号))

「世界水準の観光リゾート地を整備し、ダイビング、空手等の地域の強みを活かした観光ビジネスを振興するとともに、沖縄科学技術大学院大学を中心とした国際的なイノベーション拠点の形成を図ることにより、新たなビジネスモデルを創出し、外国人観光客等の飛躍的な増大を図る。」

「明日の日本を支える観光ビジョン」(平成28年3月30日)

- 訪日外国人旅行者数 <目標値> 2020年:4,000万人、2030年:6,000万
- 世界水準のDMOの形成・育成 2020年までに全国で100組織を形成
- MICEの誘致促進に向け、政府レベルで支援する体制を構築
 - ・レセプションでの国立施設の使用許可
 - ・ポスト・コンベンション/展示会向け施設の拡充
 - ・グローバル企業のビジネス活動を支える会議施設等の整備への支援 等
- 将来的に、官民連携の横断組織を構築し、オールジャパンで体制での支援を実施

2. 沖縄振興におけるMICEの位置付け

- 沖縄県は、大型MICE施設の整備を見据え、**MICEを沖縄観光の新機軸**として位置付けており、沖縄における**MICE振興を新たなステージに引き上げるための各種施策を戦略的に推進**することにより、**国際的なMICE都市としての競争力・ブランド力の向上を目指す**。
- 同時に、**MICEを沖縄経済成長のプラットフォーム**として新たに位置付け、**県内の各産業界が積極的にMICEを活用し産業成長を図るための施策や、MICE産業の裾野を広げ新産業の創出を図るための産業政策を推進**していく。

沖縄21世紀ビジョン基本計画（後期）におけるMICEの位置付け

基本施策: 世界水準の観光リゾート地の形成

施策展開: **大型MICE施設を核とした戦略的なMICEの振興**

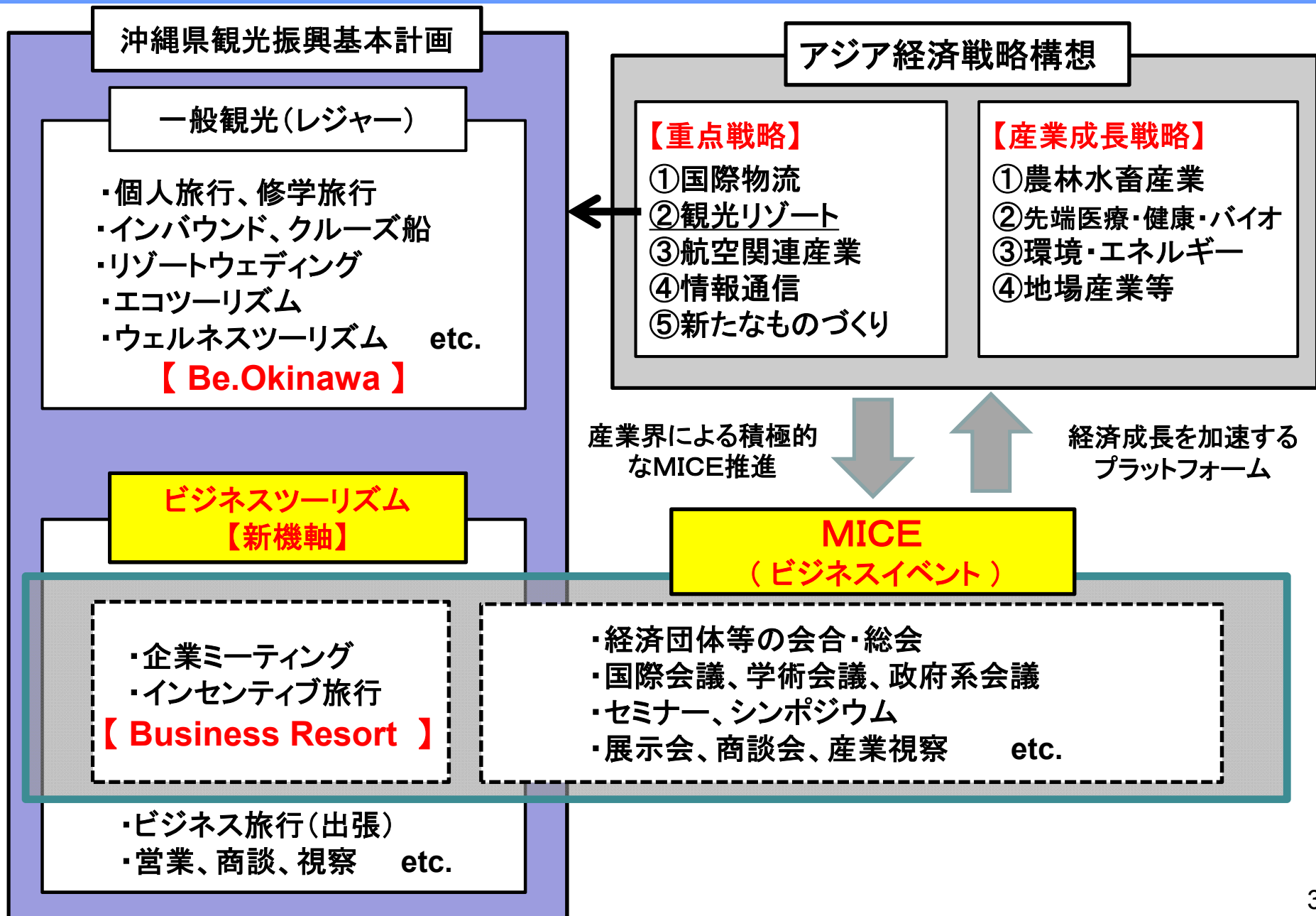
施策方向: ①誘致・プロモーションの強化、②MICE施設の充実、
③MICEから派生するビジネスの振興、④MICE振興体制の整備、
⑤MICE人材の育成、⑥県民理解の促進（ボランティアなど）

基本施策: 沖縄の魅力や優位性を生かした新たな産業の創造

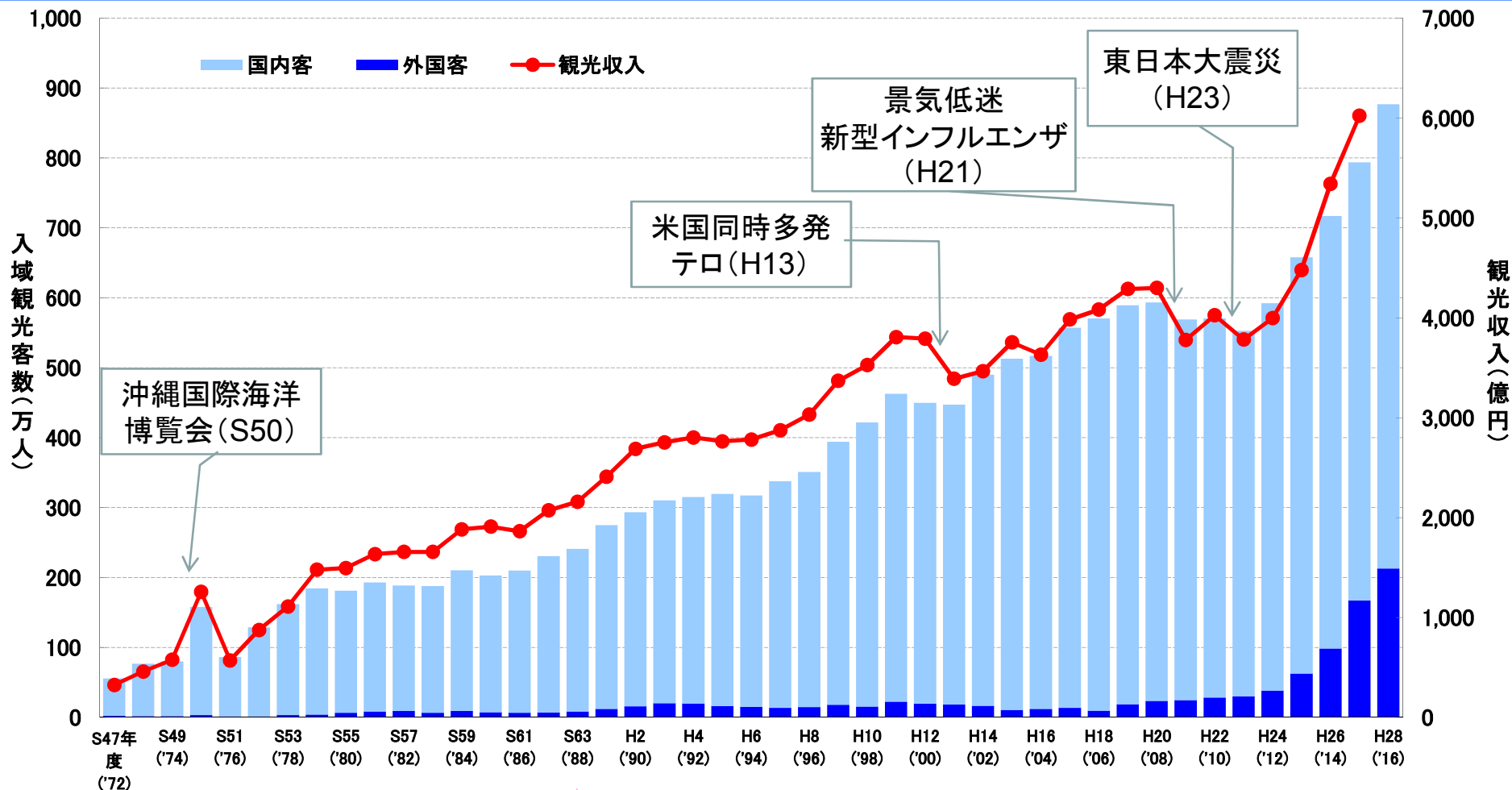
施策展開: **MICE関連産業の創出**

施策方向: ①ビジネスマッチング、セミナー開催、②ユニークベニュー開発、
③PCOなど中核事業者の集積/高度化、④プランナーなど人材の育成、
⑤展示会・商談会の誘致・開催

3. 沖縄の産業振興におけるMICEの位置付け



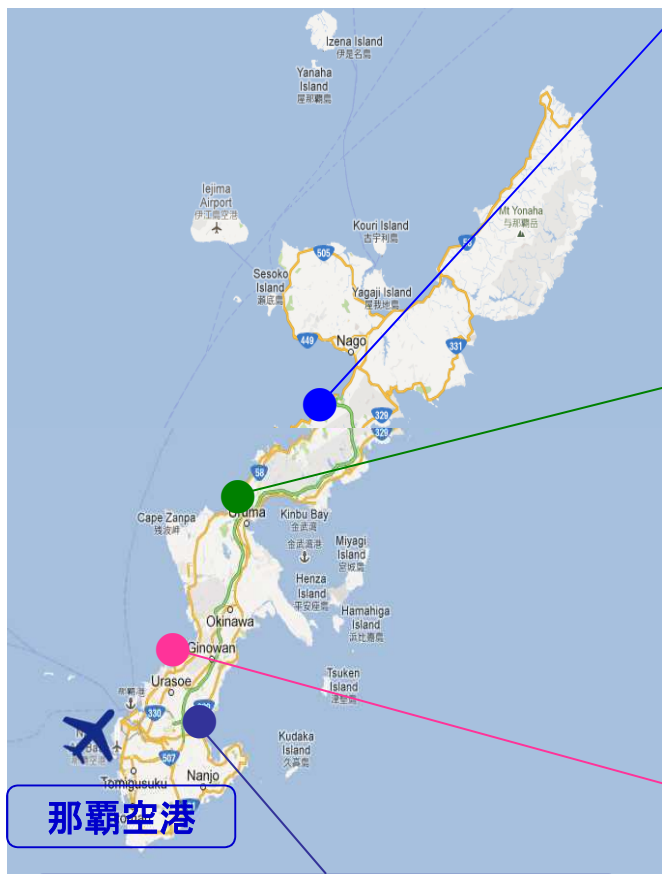
4. 沖縄県の入域観光客数と観光収入の推移



<p>1972年度(昭和47年度)</p> <p>入域観光客数 56万人</p> <p>観光収入 324億円</p>	➡	<p>2015年度(H27年度)</p> <p>入域観光客数(全体) 794万人</p> <p>うち海外入客 167万人</p> <p>観光収入 6,022億円</p>	<p>2016年度(H28年度)</p> <p>→ 877万人(83万人増)</p> <p>→ 213万人(46万人増)</p> <p>→ 調査中</p>
--	---	--	---

➤ 平成28年度の入域観光客数は877万人で、これまでの過去最高であった平成27年度の794万人を大きく上回った。

5. 沖縄県内のMICE施設

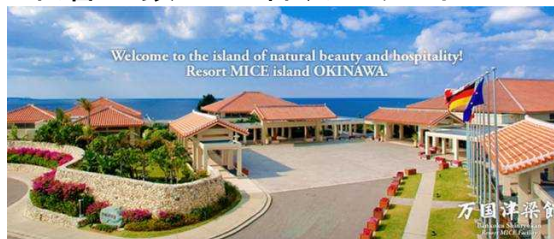


**大型MICE施設建設地
(中城湾港マリンタウン地区)**

- 2020年度供用開始予定
- 那覇市内から約30分
- 収容人数: 最大30,000人規模(展示場)

● 万国津梁館(名護市)

「九州・沖縄サミット」会場となったラグジュアリーリゾート型MICE施設。
最大収容人数: 500名(サミットホール・シアター形式) 空港から約75分。



● 沖縄科学技術大学院大学(OIST)(恩納村)

各国から研究者が集う世界に開かれた研究教育機関。
最大収容人数: 496名(講堂) 空港から約60分。



● 沖縄コンベンションセンター(宜野湾市)

展示場、劇場、会議場、分科会場等の機能を有した県内最大規模のMICE施設。最大収容人数: 4,000名(展示場・シアター形式) 空港から約40分。

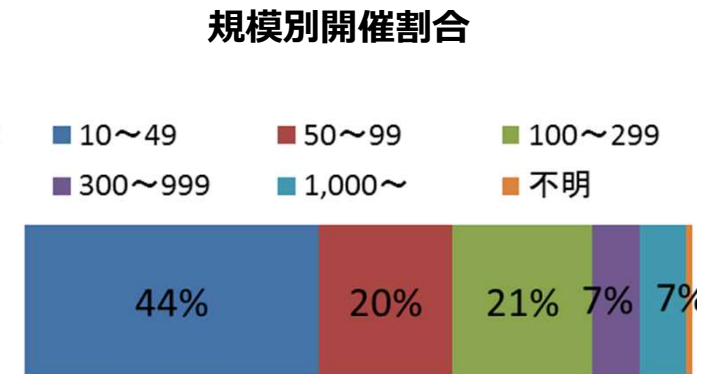
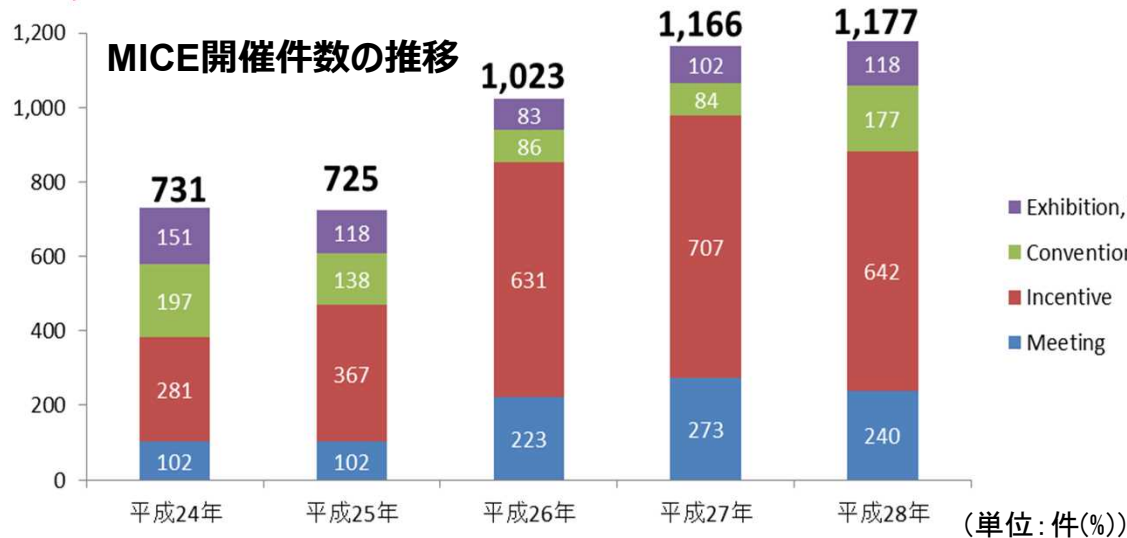


6. 沖縄県におけるMICE開催状況

◇ 沖縄県内で開催されるMICEの構成 (H28年実績1,177件)

Incentive (642件、55%)、Meeting (240件、20%)、Convention (177件、15%)、Exhibition/Event (118件、10%) ⇒ 一般観光と相関性の高いIncentiveが多い傾向

◇ 規模別では、**100名未満の催事が751件(64%)**と最も多く、現在の施設規模の制約から**1,000名以上の催事は全体の7%程度**に留まっている。



	平成24年	平成25年	平成26年	平成27年	平成28年
Meeting	102 (14%)	102 (14%)	223 (22%)	273 (23%)	240 (20%)
Incentive	281 (38%)	367 (51%)	631 (62%)	707 (61%)	642 (55%)
Convention	197 (27%)	138 (19%)	86 (8%)	84 (7%)	177 (15%)
Exhibition, Event	151 (21%)	118 (16%)	83 (8%)	102 (9%)	118 (10%)
合計	731	725	1,023	1,166	1,177

規模	割合
10～49	515 (44%)
50～99	236 (20%)
100～299	244 (21%)
300～999	88 (7%)
1,000～	83 (7%)
不明	11 (1%)
計	1,177

※平成26年以降は、ホテルを調査対象に加えたため、件数が大幅に伸びている。

7. 国際会議の開催実績

開催実績 ※海外参加者が10名以上の会議

●沖縄で開催された国際会議

(件)

開催区分 \ 年	H23年 (2011年)	H24年 (2012年)	H25年 (2013年)	H26年 (2014年)	H27年 (2015年)	H28年 (2016年)
Meeting (企業・団体等が主催する 会議、セミナー等)	11	12	19	43	42	39
Convention (学会、国際機関等が主 催する国際会議等)	11	47	33	25	23	52
合 計	22	59	52	68	65	91

●沖縄で開催された政府又は国際団体主催の国際会議等 ※内閣府調べ

(件)

年度	H23年度 (2011年度)	H24年度 (2012年度)	H25年度 (2013年度)	H26年度 (2014年度)	H27年度 (2015年度)	H28年度 (2016年度)
計	15	24	28	40	36	31

8. 過去の開催事例

太平洋島嶼国観光行政実務者会合 2017年2月9日～10日

【名護市 万国津梁館】

- 主催 観光庁、国連世界観光機関(UNWTO)アジア太平洋センター
- 協力 外務省、国際機関太平洋諸島センター、JICA
- 内容 2015年10月に東京で開催された太平洋島嶼国観光大臣会合のフォローアップの一環として、
沖縄の観光振興のベストプラクティスの共有のための意見交換と視察ツアーを行った。
- 参加国・地域 太平洋島嶼国14カ国の観光行政実務者、SPTO(南太平洋観光機関)ほか



- 参加国 13カ国
クック諸島、サモア、ナウル、ニウエ、ミクロネシア、キリバス、ソロモン諸島、トンガ、バヌアツ、パプアニューギニア、フィジー、ツバル、パラオ

9. 大型MICE施設の整備(2020年度供用開始予定)

【整備目的】

- 経済波及効果が高く、付加価値の高いMICEの取り込み
- 成長著しいアジア地域や国内外の大型化するMICE需要の取り込み

大型コンベンション、展示会・見本市の誘致

大型MICE施設の整備

【施設概要】

多目的ホール ～7,500㎡	<ul style="list-style-type: none"> ■ミーティング、インセンティブ・トラベル 5,000～10,000人規模 ⇒5,000人会議、分科会、併設展示会の同時開催が可能 ⇒ディナー形式で4,000人の収容が可能
中小会議室 20～30室	
展示場 30,000㎡	<ul style="list-style-type: none"> ■コンベンション、イベント 最大30,000人規模 ⇒展示会、コンサートで利用可能な大規模スペース

【整備イメージ】

